

2007年JICA地域別研修 「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」 —宮崎大学医学部看護学科とJICAとで開始した研修コースについて—

2007 JICA Area Focused Training in Women's Health and Child Health Support for the Middle East Countries —Newly Established Training Course between Japan International Cooperation Agency (JICA) and School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki—

永瀬つや子^{*1}

Tsuyako Nagase^{*1}

I. はじめに

宮崎大学医学部看護学科は、2007年から3年間の予定で独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency : JICA）の地域別研修「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」を実施することになりました。本年度は6月26日～7月25日の期間に中東地域からヨルダンから助産師1名、シリアから産婦人科医1名、アフガニスタンから産婦人科医2名、合計4名の研修員を受け入れました。看護学科としては、初めて地域別研修を企画・運営することになり戸惑いも多かったですが、国際連携センターを始め生殖発達医学講座産婦人科学分野、社会医学講座英語分野等のご協力の上、第1回目の研修を終了することができました。今回、看護学科で研修を開始するに至った経過と研修の実際について報告いたします。

II. 研修員受け入れプログラム要請の経緯

2006年4月上旬、宮崎大学「国際連携推進会議」において「本学の特色を出せるよう、保健医療分野での外国人研修員受入プログラムの立ち上げについて検討願いたい」との要望があがりました。そして宮崎大学国際連携センター 国際協力部門

保健医療としてJICAに提出する外国人研修員受入プログラムの立ち上げについて検討し、研修員受入プログラムの原案を立案して欲しいとの要請がありました。その要請を受け、2006年4月下旬に地域連携・国際交流委員長で、生殖発達医学講座産婦人科学 池ノ上教授、同講座で国際連携センター国際協力部門 保健医療協力教員 鮫島准教授、同じく協力教員で小児・母性（助産専攻）看護学講座 永瀬、国際連携センター国際協力担当 甲斐係長による会議が開催され、研修員受け入れプログラムにむけての準備が始まりました。宮崎大学医学部看護学科としては、2006年5月の学科教員会議で看護学科として正式に外国人研修員受入プログラムを立ち上げることへの承認を受け、プログラム作成が開始となりました。

III. 研修員受け入れプログラムのコース設立の背景

開発途上国では貧困、栄養不良、安全な水や衛生施設へのアクセスが悪いことによる感染症の多発、また保健医療システムの不備にて医療施設や保健医療関係の人材不足やリファラルシステムが機能しないなどの問題が重なり乳幼児死亡率や妊産婦死亡率が高い現状があります。また、女性は地位

^{*1} 宮崎大学医学部看護学科 小児・母性（助産専攻）看護学講座
School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

が低く、教育や保健医療サービスを受ける機会が男性より乏しいです。女性への暴力や安全な避妊法を選択できないために望まない妊娠も多く、虐げられた生活を送らざるえない状況にあります。2000年9月、国連において、ミレニアム開発目標が発表されました。8つのミレニアム開発目標のうち2つは母子保健に関わる目標であり、乳幼児死亡率の低下と妊産婦健康状態の改善が掲げられています。また開発途上国では女性の地位が低く、教育や医療機関への受診の機会の制限、女性への暴力等の多くの問題があります。ミレニアム開発目標の中にもジェンダー平等推進と女性の地位向上が掲げられており、女性が自律的に健康管理できるためのサポートが大切となっています。しかし、今まで日本で実施されている研修コースでは女性の健康支援に焦点をあてたものが少ないです。そこで看護学科として、小児・母性（助産専攻）看護学講座と地域・精神看護学講座が中心となり

開発途上国における母子保健環境を改善するため、女性が自律的に自らの健康管理に参加し、地域の社会資源を活用しながら女性の健康および子どもや家族の健康を改善できる体制やサービスづくりの基礎を理解することを目的とする1ヶ月間の研修コース、「女性の健康支援を含んだ母子保健方策」プログラム案を作成しました。2006年5月下旬に研修コース案を国際連携センターを通してJICA九州に提出しました。

IV. 研修コース開始までの過程

宮崎大学から提出されたプログラム案をもとにJICA在外事務所に研修コースに対してのニーズについて照会が始まりました。7月にJICA九州の協力のもとで研修内容について再度検討を行い、外務省に研修コースの申請を行いました。

12月上旬、JICA九州から中東地域を対象とした研修コースとしてほぼ採択可能との連絡があり、

表1 JICA地域別研修コースの研修概要

コースタイトル (和文)	「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」
コースタイトル (英文)	"Women's Health and Maternal and Child Health Support for the Middle East Countries"
協力年限	平成19年度から21年度までの3年間
割当対象国	アフガニスタン、ヨルダン、シリア、イラクの4カ国
本邦受入期間	来日から帰国日まで
技術研修期間	宮崎大学での研修初日から最終日まで (6/26-7/25)
定員	5名
参加資格要件	(1) 所定の手続きに基づき相手国政府によって推薦された者 (2) 看護師、助産師、保健師またはヘルスワーカーの資格を持ち、当該分野において5年以上の経験を有する者。 (3) 25歳以上45歳以下の者。 (4) 心身ともに健康な者。 (5) 軍に属していない者。
研修目標	(1) 日本で実施している母子保健や女性の健康支援のためのサービスの仕組みや政策について理解する。 (2) 母子保健を支える地域住人や利用可能な専門家の活動について理解を深める。 (3) 女性を暴力から守ったり自律的に自らの健康管理に参加するためのサービスやサポートを学び、自国でできる体制づくりを考えることができる。
宿泊施設	リバーサイド宮崎 (ウィークリーマンション) 〒880-0805 宮崎市城ヶ崎3丁目3-1 (日豊本線南宮崎駅 城ヶ崎 バスで10分 徒歩5分) TEL 0985-50-9696・FAX 0985-52-6245 http://www.riverside-miyazaki.com/
研修実施体制	本研修コースは、宮崎大学医学部看護学科が中心となり、関係機関等の協力のもとに計画、実施する。
導入プログラム	初年度は、ジェネラル・オリエンテーション（日本の政治・文化・教育・経済など基礎情報についての講義）が実施できないため、マルチメディア教材の活用を検討する。後日、郵送の予定。マルチメディア教材は、コーススケジュールに現段階では加えず、時間を見つけて適宜自習してもらうスタイルでも可能と考える。

決定に向けての準備としてJICA九州担当者の岡田職員が宮崎大学に来訪しました。国際連携センターと看護学科側担当者と共に研修目的や内容、対象者、時期、その他研修実施にあたってのJICAと宮崎大学の役割等について検討を行いました。

2007年2月上旬に研修コース採択が決定いたしました。再度JICA九州担当者が宮崎大学を訪れ、研修実施に向けての具体的内容と準備についての打ち合わせを行い、表1 JICA地域別研修コー

スの研修概要のように決定いたしました。

看護学科ではJICAとの話し合い後からJICA九州と協力して、GI (General Information : 募集要領) の作成、宮崎県福祉保健部、宮崎市健康福祉課、日本助産師会宮崎支部、宮崎県看護協会を始めとした研修協力機関へ協力依頼を行いながら、研修実施にむけての連絡調整を行い、準備を進めていきました(表2 研修項目・内容と担当機関および施設参照)。

表2 研修項目・内容と担当機関および施設

研修項目	内容	担当機関および施設
周産期医療システム	宮崎大学を中心とした周産期医療体制 <ul style="list-style-type: none"> リファラルシステム (他の産科施設との連携と緊急搬送システムを含む) 人材育成(周産期スタッフ研修等) 周産期医療の実際 (NICU見学, 妊婦健診, ハイリスク妊娠の管理等) 	<ul style="list-style-type: none"> 生殖発達医学講座産婦人科学分野 宮崎大学医学部附属病院産婦人科病棟・外来, 周産母子センター
母子保健行政の現状	日本の母子保健対策 <ul style="list-style-type: none"> 母子保健事業の歴史 母子健康手帳 愛育班や母子保健推進員の活動 	<ul style="list-style-type: none"> 地域・精神看護学講座 小児・母性(助産専攻)看護学講座
地域における母子保健活動(1)	<ul style="list-style-type: none"> 地域母子保健対策 乳幼児健診 すこやか親子21 	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県健康増進課 宮崎市健康増進課
地域における母子保健活動(2)	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の育児サポートや育児サークル 地域の専門家(助産師等)の活動(助産所見学を含む) 乳幼児保育による女性の保育支援や乳幼児の健康支援 	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県中央保健所, “ひよこの会” 清武町子育て支援センター 日本助産師会宮崎支部 “か母ちゃっ子くらぶ” 上田助産院 池田助産院 つぼみの寮(乳児院) くすの木保育園
母子保健・女性の健康支援をサポートする人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 看護基礎教育 看護継続教育 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護学講座 成人・老年看護学講座 宮崎大学医学部附属病院看護部 宮崎県看護協会
女性の健康支援	<ul style="list-style-type: none"> 家族計画(避妊) 女性専用外来 健康診断(乳癌や子宮癌を含む) 性感染症 思春期～更年期までの健康支援 	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県健康増進課 県立宮崎病院女性専用外来 宮崎市健康増進課 外科学講座泌尿器科学分野 宮崎県立看護大学
女性や子どもへの暴力	<ul style="list-style-type: none"> 女性への虐待 乳幼児虐待 児童虐待 	<ul style="list-style-type: none"> 地域・精神看護学講座 NPO法人ハートスペースM 宮崎県立看護大学
思春期教育	性教育 <ul style="list-style-type: none"> ピアカウンセリング 大学生による高校生へのピアエデュケーション 助産師による中学生対象への性教育 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本大学 宮崎大学医学部看護学科ピアカウンセリング担当学生 県立都農高等学校 宮崎市立木花中学校 “か母ちゃっ子くらぶ”
Jobreportおよびファイナルレポート作成および発表	<ul style="list-style-type: none"> 自国での母子保健システムと活動 研修で学んだことの知識のまとめ アクションプラン作成 	<ul style="list-style-type: none"> 社会医学講座英語分野 宮崎大学医学部看護学科 English for Nursing Purpose(ENP)学生 宮崎大学

3月下旬に中東研修対象地域への募集が開始し、5月下旬に初年度参加の4名の参加者が決定、6月26日から研修開始となりました。

V. 研修コースの実際

1. 研修参加者

研修は3カ国4名の研修員の参加がありました。内訳はヨルダンから保健省家族計画課の母子保健監督官である助産師1名、シリアから保健センター所長である産婦人科医1名、アフガニスタンから保健省リプロダクティブヘルス部家族計画管理官

である産婦人科医と産婦人科病棟勤務の産婦人科医2名でした。女性の健康支援も含めていることから研修員全員女性でした。研修員への通訳も兼ねて、財団法人日本国際協力センター (Japan International Cooperation Center : JICE) から派遣された許研修監理員の同行がありました。

2. 研修の内容

研修員は6月25日に宮崎に到着、6月26日から表3 研修スケジュール通りに研修を実施しました。研修は、講義、演習、見学から構成されてい

表3 研修スケジュール

月/日		午前 (9:00-12:00)	午後1(13:00-15:00)	午後2(15:00-17:00)	形式
6/21	木	来日			
6/22-24		JICA九州 ブリーフィング			
6/25	月	JICA九州をチェックアウト	移動 (北九州→宮崎)		
6/26	火	1 表敬訪問 (宮崎大学医学部)	表敬訪問 (宮崎大学学長, 副学長, 県庁国際政策課, 福祉保健部)	16:00～ウエルカムパーティー	訪問
6/27	水	2 Job Report発表 意見交換 (ENP学生参加)	研修に対する期待や目的	地域母子保健行政	報告・講義
6/28	木	3 宮崎県の母子保健 (県健康増進課)	母子保健活動	母性看護学実習室見学	講義
6/29	金	4 ピア教育とピアカウンセリング (熊本大学)			講義・演習
6/30	土	5 大学生による大学生を対象としたピアカウンセリング	研修員と学生の意見交換		演習・見学
7/1	日	休日			
7/2	月	振り替え休日			
7/3	火	6 周産期医療システム (生殖発達医学講座産婦人科学分野)			講義・見学
7/4	水	7 周産期医療システム (生殖発達医学講座産婦人科学分野)			講義・見学
7/5	木	8 日本助産師会・“か母ちゃっくらぶ”の活動	宮崎市立木花中2年生対象の性教育思春期教育		講義・見学
7/6	金	9 パパママ教室 (宮崎市)	性感染症と母子感染 (外科学講座泌尿器科学分野)	ENP学生との交流 (社会医学講座英語分野)	講義・見学
7/7	土	休日			
7/8	日	大学病院外来ホールにて七夕のお茶会			
7/9	月	10 日本の看護教育	日本の看護継続教育	宮崎大学附属病院見学	講義・見学
7/10	火	11 児童虐待 (県立看護大学)	開業助産師と助産所の役割	くすの木保育園	講義・見学
7/11	水	12 上田助産院 開業助産師の活動	上田助産院での地域の子育て支援と意見交換		見学・討論
7/12	木	13 県立都農高等学校への移動	県立都農高等学校3年生対象のピアエデュケーション		見学・討論
7/13	金	14 宮崎県中央保健所, “ひよこの会”	県立宮崎病院女性専用外来		講義・見学
7/14	土	休日			
7/15	日	休日			
7/16	月	15 海の日	宮崎の出産・育児文化と歴史 (日南地域)		見学
7/17	火	15 日南 池田助産院 開業助産師の活動			見学・討論
7/18	水	16 ぴんくりボン活動 (乳がん予防) (県健康増進課)	3歳児健康診査見学 (宮崎市)		講義・見学
7/19	木	17 つぼみの寮 (乳児院) の活動	子育て支援グループ活動 (清武町)	女性の生涯を通しての健康 (県立看護大学)	講義・見学
7/20	金	18 Domestic Violence (DV)	NPO法人 ハートスペースMによるDVサポートの現状		講義
7/21	土	休日			
7/22	日	休日			
7/23	月	19 宮崎県看護協会	いきいき女性セミナー (宮崎市)		講義・見学
7/24	火	20 研修のまとめ			討論
7/25	水	21 ファイナルレポート発表会	評価会, 閉講式,	farewell party	発表・討論



写真1 ディスカッションしながらの講義



写真3 閉講式



写真2 ピアカウンセリングの参加と見学

ました。日本の母子保健システムや周産期医療システム、虐待等の基本的知識は講義、ピアカウンセリング等研修員も参加できる内容は演習形式でした。講義は研修員の国の状況を確認しながら対話式方式を活用しました。また、助産所の活動や学校での性教育・思春期教育、地域の健康教育プログラム、健診事業、保育所や乳児院、病院の活動現場を訪問し、日本で実施されている様々な女性支援活動や母子保健事業を見学しました。

研修員は、日本の母子保健政策や周産期医療システムの状況に関心を示し、質問や意見交換を行いながら積極的に参加していました。特にピアカウンセリングと助産所の活動においては、素晴らしい手法や働きかけに研修員の国々でも活用したいとの希望がありました。また、中学生や高校生を対象とした性教育・思春期教育に関しては、自国での性教育実施にむけてのアイデアを得ていました。保育所の訪問では子ども達との交流を行い、乳児院やダウン症親の会“ひよこの会”の活

動現場では、スタッフや親達の素晴らしい活動に涙流す場面もありました。女性の健康支援のための健康教育プログラムのエクササイズに参加し、自分達の健康増進にも効果があると、担当者にエクササイズの方法を尋ねたりし、すべてのプログラムに関して高い関心を示していました。

最終日には、研修で学んだ内容とそこから考えたアクションプランを含めたファイナルレポートの発表会があり、この研修で学んだことを自国で活かすための計画が伺えました。

3. 研修に対する評価

研修の評価は、ファイナルレポートによる発表、評価会の他に毎日のプログラム項目に対して大学で作成した評価表で、①研修目的に適していたか。②自国で活用できそうな内容であったか。③自分にとって有益な内容であったか。④資料や内容は、わかりやすかったか。⑤時間は適切であったか。という5項目について最低点を1点、最高点を5点とし5段階で評価しました。研修内容に関しては、②自国で活用できそうな内容であったか。については平均が3.4点と低かったが、それ以外は4点以上の評点を得ることができていました。特にピアカウンセリング、助産師及び助産所活動、周産期医療システム、女性の健康支援活動では②以外の項目は4.5点以上であり、研修員にとって満足した内容であったといえます。

反面、多くのことを学んで欲しいとのことで研修内容が盛りだくさんになり、時間的ゆとりがあまりないプログラムになってしまっていました。

研修員から、講義は午前中とし、訪問や見学は午後にして欲しいとの要望があがっていました。また全員がイスラム教徒で、食に対してのタブーがあり、外食では食べれないものが多い等の生活面での問題もありました。生活面の困難さに直面し、研修に集中できない場面もあったとの意見あり、1ヶ月という長期研修であることを考え、研修員の生活や健康面を考慮したプログラムづくりの必要性を実感いたしました。

4. 今後の研修に関する希望

研修員から、日本の母子保健指標が改善していった歴史的背景、男女平等に向けての活動、手術室やIUD挿入等の手術や処置時の感染予防活動や院内感染予防のための方法、具体的な分娩時のケアや処置の見学などがあげられました。またイスラムの国々では小学生までは男女が同じ教室で学びますが、中学生以上は別々の教室で勉強します。そこで男女対象の性教育のロールモデルとして、小学生対象の性教育の見学の希望がありました。自国で活用できる性教育教材の作成についても付け加えて欲しいとの意見があり、研修プログラムの改善に役に立つ情報を得ることができました。

VI. おわりに

手探り状態で始めた研修コースでありましたが、国際連携センターを始めとした、大学教職員の皆様のご協力で無事第1回目の研修を終えることが出来ました。初めての研修受入であったため、研修員の体調を配慮せず、ハードな研修となってしまうまいりました。しかし、研修員4名の方はとても熱心で、どの研修項目に関しても積極的に質問し自分から参加し、多くのことを学んで帰っていかれました。また、第1回の研修で準備期間もあまりなかったのですが、宮崎県福祉保健部や宮崎市健康増進課を始めとした多くの機関や施設が忙しい中研修にご協力してくださいました。すべての協力機関や施設が、研修員の方々に学んでもらうように資料作成や見学等について配慮していただいたおかげで有意義な研修となりました。

看護学科としてもこの研修を通して、改めて宮崎で行われている母子保健や女性の健康支援にかかわる活動のすばらしさに触れることができました。これを機会に益々地域との連携を深められればと思いました。

最後に、この研修を実施するにあたってご協力いただいたすべての機関、施設の皆様に感謝するとともに、研修の企画・運営にご尽力いただいたJICA九州およびJICEのスタッフの皆様にお礼申し上げます。